

前者の代理は濱口緊縮内閣これを執刀し、(昭和四年十一月二十一日―五年一月十一日)……(神戸海友同志會が創立第一歩の足跡を印したのはこの間昭和四年十二月六日であり意義深い第二回大會の歩武を進めたのは昭和六年四月十九日であった。)

後者は大養公債内閣がこれを代理した。(昭和六年十二月十三日―十七日)。
國際的通貨制度の全般的な動搖不斷の變態こそ、生産と市場の對立激化及び發展の不均衡に基く世界資本主義破綻の赤裸々な告白である。かゝる破綻が列強ドイツ、イギリスを旋舞し、フランス、アメリカその他を強襲するとき、極東に於ける日支の對立は、滿蒙にその軋轢を擡破し、これが國際的な對立激化の集中都市上海に移動凝集して爾來數ヶ月に日支貿易は減退途絶し、悉く海外市場に依存する日本貿易の大收縮を痛打し、これに従屬的な港灣運輸産業の打撃を深刻ならしめ、勞資の對立また激化し、弱體資本の經濟的缺陷と共にその政治的無能無力の故に港灣勞働者の生活苦境は苦力的な無政府狀態その儘で放置されるに至つてゐるのである。

我々は、かゝる困難多事な過渡的段階にその成長の歩武を進めてきたが、今こゝに第三回大會を迎ふるに當り、前進のための幾多の係争と戰跡を回顧批判して、尙一層間斷なき成長發展のための活動方針を検討吟味し、日本無産階級戰闘勢力の不拔なる基行を築かんがために一歩は一歩の抉力として、その屹立する客觀的基礎狀勢の一應の要約を記述せる次第である。

神戸海友同志會の一般狀勢

一 發 展 狀 勢

昭和四年(一九二九年)十二月六日が神戸海友同志會の創立(第一回)大會であつた。

この時期は、世界資本主義が同年初のアメリカ取引所恐慌―工業恐慌―を契機として、「世界恐慌と戰爭の危機を表徴せる動搖の段階」たる第三期の特徴を全面的に曝露し始めた時期であり、日本資本主義もその最も甚大な打撃を受けた一環として、世界恐慌の激成拍車を成したのであるが、この時期までの日本資本主義は、戦後資本主義第二期(一九二三年―一九二八年)を通じて金輸出禁止繼續により、物價の相對的高價維持による産業の保護。二、爲替安による輸出貿易の進展助長。三、戦後の市場喪失―狹隘化の時期に、これが相當の維持と侵出を助成したこと等々に基き金融の硬化を防止し、恐慌の打撃を緩和して、金融資本の獨占的勢力とその支配的發展を助成し、勞働者農民無産階級の搾取と生活難を痛酷にしつゝ肥大膨脹したのであつて、これら總じてインフレーションの効果である化物的發展は、その依存するところ大なる海外市場―特にアメリカに對する貿易の大收縮―これに加ふるに支那、インド、印度支那、カナダ、濠洲等々の關稅障壁政策による市場狹隘化の痛打により、その反作用をして、日本資本主義に許在せる深大矛盾を爆發する導火作用たらしむるに至つたのであつた。

金融資本の濱口緊縮内閣による金解禁斷行は、これが防火の應急手段とされたが、所謂緊縮の嵐が吹きすさんだこ